

## 第5学年1組社会科学学習指導案

平成14年10月 9日(水)第4校時

平成14年11月11日(金)第5校時

指導者 教諭 松 榮 直

### 1 単元名 工業生産を支える人々

### 2 単元の目標

我が国の工業生産について、工業製品と国民生活との関係、各種工業生産や工業地域の分布、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働きなどを調べ、工業製品が国民生活の向上や産業の発展に重要な役割を果たしていることを考えることができる。

### 3 単元と児童

#### (1) 単元について

本単元は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定している。

- |  |
|--|
| ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること                 |
| イ 我が国の各種の工業製品や工業地域の分布など                |
| ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き |

工業生産の中で、中核である機械工業から自動車の生産を取り上げ、学習を進めていく。自動車の生産を取り扱う理由は、以下の通りである。

自動車産業は、「物(製品)」と「人(労働者)」の両面からみた代表的な総合産業である。

- ・ 自動車づくりには、金属や機械だけでなく、化学・繊維・窯業など、多岐な分野の工業技術が結集して成り立っている。
- ・ 自動車産業(製造部門に加え、販売・整備・資材・輸送などの関連部門も含む)には、働く人のおよそ10人に1人が直接的・間接的に関わっている。

自動車は、各家庭に普及しており、児童は最も身近な交通手段の一つとして利用しており、日常生活で欠かせないものとなっている。

現在は、自動車産業は、製品の品質や生産を高めることはもちろんのこと、消費者や社会からのニーズ(安全性の確保・環境への配慮など)に応えた製品づくりが求められている。

地域性を生かした体験的活動(自動車及び自動車部品の観察・自動車販売店及び部品工場での調査・見学など)が可能である。

内容ウについては、消費者の立場から自動車の利便性や問題点を考えながら、自動車の観察や自動車工場の見学などの体験的活動を通して、工業生産に従事する人々の工夫や努力に迫ることができるようにしたい。また、工業生産を支える貿易や運輸の働きについては、原材料の輸入や自動車工場生産された自動車の行方を追究することで、その内容に迫りたい。

内容ア・ウについては、自動車で学習したことを生かしながら、地図や地球儀、各種グラフなどの資料を活用して学習を進めていきたい。

#### (2) 児童について(児童数35名)

これまでの学習について

社会科の学習への興味・関心について質問したところ、全体の3分の1の児童が「好きでも嫌いでもない」と答えている。はっきり好き嫌いを答えている児童は、それぞれ6分の1ずつであった。その理由を尋ねると、「社会について、今まで自分の知らなかったことが分かる」、

「疑問に思ったことを調べる」、「調べたことをまとめる」ということに、学習する楽しさを見出している児童がいたが、一方では、「語句が難しい」「グラフなどの資料を読んでもよく分からない」、「調べていると途中で飽きる」、「調べたことをレポートなどにまとめるのが苦手」と、社会科の学習で嫌なところを挙げている児童が多かった。

前単元の「食料生産を支える人々」では、農業においては稲作を取り上げ、総合的な学習の時間と関連させて、学校の水槽に作った水田やバケツでの水稻栽培を行う活動を行った。この活動は、稲作への関心・意欲を高めることに有効であった。

実際に稲作を営む人々の工夫や努力について調べる活動では、自分が興味をもったことについてレポートにまとめる活動を行った。この活動では、国語「言葉の研究レポート」での学習を生かし、調べたり考えたりしたことを筋道を立てて表現することができた児童が多かった。

しかし、学習問題を設定する場面で十分な問題意識をもつことができなかつたり、調査活動で追究しようとする意欲が持続しなかつたりして、活動が停滞してしまった。また、自分が調べたいことと結び付く資料を選択できなかつたり、結び付いた資料を目の前にしても十分に内容を読み取ることができなかつたりする児童も多かった。

そのため、これからの食料生産についての問題点を調べる学習では、代表的な資料（グラフや地図）をいくつか提示し、その具体的な読み取り方について指導をしたが、グラフや地図自体に抵抗を示す児童は未だに多い。

#### 自動車について

「工業製品と聞いてどんな物を思い浮かべるか」と質問したところ、「自動車」と答えた児童が一番多く、全体の3分の1の人数であった。また、「調べてみたい工業製品」として「自動車」を挙げた児童は、全体の4分の1で、「毎日見ているから」、「複雑な機械がたくさん使われていそうだから」、「どのように作られているのか知りたい」、「走る仕組みを知りたい」という理由を挙げている。

「自動車と聞いて思い浮かぶこと・物」を児童に挙げさせたところ、自動車各部の名称についてはよく知っていた。

児童の各家庭について調べてみると、全家庭が自動車を保有していた。そして、主に買い物・レジャー・学習塾への通学で自家用車を利用している。また、自動車に関連する職業に就いている保護者も数人いた（全体の10分の1）。

## 4 指導と評価の構想

### (1) 指導の構想

児童の実態から、教材をとらえる視点を明確にし、体験的活動を学習の導入に位置付けることで、教材に対する関心・意欲を高め、その活動で得た知識をもとに学習問題を見出し、追究していくのではないかと考えた。また、追究を持続させるためには、資料を活用する力を身に付けさせていくことが大切であると考えた。そこで、以下の手立てを講じる。

#### 消費者の立場から学んでいく単元構成

自動車は、児童の日常生活の中で身近なものであるが、実際に必要を感じて自動車を購入し、生活の中で様々な目的に応じて利用しているのは、児童の保護者である。

そこで、最初に児童にとって一番身近な「消費者」である保護者への自動車に対する意識調査を行い、消費者の願いを十分に把握して学習を進める。消費者の願いは、生産者の工夫や努力と密接な関係にあるからである。これを単元を通して、児童が学習問題を考え、追究していく根拠としていきたい。そのため、小単元「自動車工場をたずねて」では、まず自動車づくりに消費者の願いがどのように生かされているかを学習し、自動車づくりにはげむ人々について学習していく。

### 地域性を生かした体験的活動

残念なことに、新潟県には自動車の組み立て工場がないため、見学することは不可能である。

しかし、学校の近くには、自動車の販売店・ショールーム（新潟トヨタ自動車青山営業所）があり、県内には自動車メーターの世界シェア9%をもつ部品工場（日本精機高見事業所）がある。そこで、これらの利点を生かして体験的活動を設定する。

自動車販売店・ショールームの見学では、様々な種類の自動車を実際に見たりさわったりする活動、環境対策車を見学する活動を行う。この活動では、自動車への興味・関心を深めさせるとともに、消費者の願いが自動車づくりに反映されていることに気付かせたい。また、販売店の方には、児童の調べ学習では解決できない問題について答えてもらうなど、単元を通して協力していただく。

部品工場では、施設や製造工程を見学し、実際に働く人の生の声を聞く活動を設定する。

この活動では、工場で働く人々の様々な工夫や努力に気付かせ、もっと知りたい・調べてみたいという意欲をもたせたい。また、見学不可能な組み立て工場の学習においても、部品工場での学習を生かしていきたい。

### 資料活用の技能を高めるための工夫

資料の読み取りの中でも、特にグラフには児童の苦手意識が強い。取り扱う資料の中には、算数で学習していないこと（円グラフや百分率）も登場する。そこで、児童にグラフのよさを知らせるために、本単元に関する児童の実態調査の結果や、児童が行った保護者へのインタビューの結果をグラフに表して提示する。自分自身が関係する調査の結果には、興味・関心を示すと予想される。それらをグラフに表すことで、一目見て全体の傾向や各項目の違いを読み取ることが容易であることを知らせ、苦手意識をなくしていきたい。

また、教材に対する児童の考えと事実とずれが生じた場合、児童は驚き、「なぜだろう」「調べてみたい」と問題意識をもつであろう。その事実を児童に知らせる際に、具体的な根拠となる資料を提示することを単元を通して行う。そして、児童とともに具体的な読み取り方を確認していくことで、資料活用が苦手な児童にも対応していきたい。

## (2) 評価の構想

具体的な評価の手段として、「行動観察」、「発言・つぶやき」、「ノート・ワークシート」、「レポートなどの作品」、「評価テスト」等が挙げられるが、授業中の見取りには限界がある。特に、「社会事象への関心・意欲・態度」、「社会的な思考・判断」といった観点は評価がしづらい。そこで、「書く活動」を重視した以下の手立てを講じる。

### 児童の思考過程を明らかにするノート・ワークシートの作成

教師が評価する手段の一つとして、また、児童自身が学習したことを振り返り、次の学習に役立てることができるものとして、ノート・ワークシートを活用する。

具体的には、ワークシートには、学習する内容・手順を示す項目を示し、それに合わせて児童が考えたことや分かったことを記述できるようにする。ノートは、原則的には気付いたことや大切だと思ったことなどを自由に記述できるようにする。ワークシートはノートに貼り、1つの活動の中で併用できるようにする。これを積み重ねていき、適切に評価しながら指導に役立てていきたい。

### 毎日取り組んでいる「ひと言日記」の活用（指導と評価の一体化にかかわって）

学級では、4月から下校する前に、一日の出来事を振り返って自分の思いを綴る「ひと言日記」に取り組んでいる。文章を書くことが苦手な児童も抵抗なく取り組むようになってきた。

本単元では、この「ひと言日記」を活用する。「分かったこと」「がんばったこと」「むずかしかったこと」「これからしてみたいこと」といった自分の学習を振り返る観点を与え、授業後の感想を書かせる。この取組で児童が自己評価を行い、それを教師が読んでコメントを書き

加えて支援していくことで、指導に役立てていきたい。

## 5 単元における具体の評価規準と評価基準

観点	単元における具体の評価規準 (「おおむね満足できる」状況 B の評価基準)	評価基準(判断基準)	
		「十分満足できる」状況(A)	「努力を要する」状況(C)
社会的 事象 への 関心 ・ 意欲 ・ 態度	<p>人々がどんな自動車に乗りたいと考えているのか、関心をもって調べようとしている。</p> <p>安全で、人や環境にやさしい自動車づくりに関心をもって調べようとしている。</p> <p>自動車メーターの内部のしくみについて意欲的に観察し、気付いたことを発言したりノートに書いたりしている。</p>	<p>人々が自分の生活のしかたに合わせて、どんな自動車に乗りたいと考えているのか、関心をもって調べようとしている。</p> <p>安全で、人や環境にやさしい自動車づくりに関心をもち、様々な資料を使って調べようとしている。</p> <p>自動車メーターの内部のしくみについて意欲的に観察し、つくった人の様子に着目して気付いたことを発言したりノートに書いたりしている。</p>	<p>人々がどんな自動車に乗りたいと考えているのかを調べようとしている。</p> <p>安全で、人や環境にやさしい自動車づくりについて調べようとしている。</p> <p>自動車メーターの内部のしくみについて観察し、教師や友達の力を借りて調べたり考えたりしている。</p>
	<p>完成した自動車をどのようにして運ぶのかに関心をもち、運輸の仕事について調べようとしている。</p> <p>自動車の輸出入の様子から、日本の貿易の特色や問題について関心をもち、調べようとしている。</p>	<p>完成した自動車をどのようにして運ぶのかに関心をもち、携わる人々の工夫や努力に着目しながら運輸の仕事について調べようとしている。</p> <p>自動車の輸出入の様子から、外国との関係を考え、日本の貿易の特色や問題について関心をもち、調べようとしている。</p>	<p>完成した自動車をどのようにして運ぶのか運輸の仕事について調べようとしている。</p> <p>日本の貿易の特色や問題について調べようとしている。</p>
	<p>日本の工業のさかんな地域の広がりについて関心をもって調べ、白地図に表している。</p> <p>工業の発達による自分たちの暮らしの変化に関心をもち、これからの工業生産の進め方について考えている。</p>	<p>日本の工業の種類や工業のさかんな地域の広がりについて調べて白地図に表し、自分の考えをノートに書いている。</p> <p>これまでの学習の成果を積極的に生かし、工業の発達による自分たちの暮らしの変化に関心をもち、これからの工業生産の進め方について考えている。</p>	<p>日本の工業の種類や、工業のさかんな地域について調べようとしている。</p> <p>これからの工業生産の進め方について考えようとしている。</p>
	<p>安全で乗る人にやさしい自動車とはどのような車かを考</p>	<p>自分の生活の様子をもとにして、安全で乗る人にやさしい自動車とは</p>	<p>安全な自動車とはどのような車かを考えている。</p>

<p>社会的な思考・判断</p>	<p>えている。</p> <p>品質の高い自動車メーカーが大量に生産されるには、働いている人々の工夫や努力があることに気づき、働く人や地域の環境に配慮した自動車づくりの工夫について考えている。</p> <p>工場の立地条件について、物や人の動きとのかかわりから考えている。</p>	<p>どのような車かを具体的に考えている。</p> <p>品質の高い自動車メーカーが大量に生産されるには、働いている人々の工夫や努力があることに気づき、工場の具体的な様子と関連させながら、働く人や地域の環境に配慮した自動車づくりの工夫について考えている。</p> <p>工場の立地条件について、地域の産業の様子・物や人の動きとのかかわりから考えている。</p>	<p>働いている人の自動車づくりの工夫について考えようとしている。</p> <p>工場の立地条件について考えている。</p>
	<p>-----</p> <p>運輸の仕事に利用される高速道路の役割や、船による輸送の役割について考えている。</p> <p>日本の貿易の問題に気づき、これからの貿易の進め方について考えている。</p>	<p>-----</p> <p>運輸の仕事に利用される高速道路の役割や、船による輸送の役割について、双方の特徴をとらえて比較しながら考えている。</p> <p>日本の貿易の問題に気づき、国内の産業の様子に目を向けながらこれからの貿易の進め方について考えている。</p>	<p>-----</p> <p>運輸の仕事に利用される高速道路の役割や、船による輸送の役割のどちらか一つについて考えている。</p> <p>日本の貿易の問題を考えている。</p>
	<p>-----</p> <p>多くの中小工場のはたらきによって日本の工業生産が成り立っていることを判断している。</p> <p>日本の工業の盛んな地域の広がりから、その特色を工場の立地条件、貿易・運輸との関わりから考えている。</p>	<p>-----</p> <p>大工場と中小工場との関係に着目し、多くの中小工場のはたらきによって日本の工業生産が成り立っていることを判断している。</p> <p>日本の工業の盛んな地域の広がりから、その特色を人口や地形などの工場の立地条件、貿易・運輸との関わりなど様々な視点から考えている。</p>	<p>-----</p> <p>中小工場のはたらきについて考えようとしている。</p> <p>日本の工業の盛んな地域の特色を考えようとしている。</p>
<p>資料活用 の技能 ・ 表現</p>	<p>資料をもとに、「安全な車、人にやさしい車、リサイクルしやすい車」づくりの工夫を読み取っている。</p> <p>工場の全景写真と配置図を対照しながら、その特徴を読み取っている。</p>	<p>様々な資料をもとに、「安全な車、人にやさしい車、リサイクルしやすい車」づくりの工夫を読み取っている。</p> <p>工場の全景写真と配置図を対照しながら、人々の工夫や努力を考え、その特徴を読み取っている。</p>	<p>資料をもとに、「安全な車、人にやさしい車、リサイクルしやすい車」づくりの工夫の中からいくつかを読み取っている。</p> <p>工場配置図から、その特徴を読み取っている。</p>

<p>資料活用 の技能・表現</p>	<p>調べる目当てに即して、自動車づくりや働く人々の様子を調べている。</p> <p>ビデオ映像や働く人へのインタビューなどから、自動車をキャリアカーで運ぶ仕事や船に積み込む仕事の様子を調べている。</p> <p>地図をもとに、日本の交通網の広がりを読み取っている。</p> <p>地球儀や地図、グラフなどをもとに、主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移などを読み取り、その特色をまとめている。</p>	<p>調べる目当てに即しながら、幅広い視点で自動車づくりや働く人々の様子を調べている。</p> <p>ビデオ映像や働く人へのインタビューなどから、人々の工夫や努力に着目し、自動車をキャリアカーで運ぶ仕事や船に積み込む仕事の様子を調べている。</p> <p>地図をもとに、交通手段の違いに着目しながら日本の交通網の広がりを読み取っている。</p> <p>地球儀や地図、グラフなどをもとに、主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移などを読み取り、それぞれの特色を関係付けて、我が国の貿易の特色をまとめている。</p>	<p>調べる目当てに即して、自動車づくりの様子を調べている。</p> <p>ビデオ映像や働く人へのインタビューなどから、自動車をキャリアカーで運ぶ仕事や船に積み込む仕事のいずれか一つの様子を調べている。</p> <p>地図をもとに、日本の交通網の様子を読み取っている。</p> <p>地球儀や地図、グラフなどをもとに、主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移などを読み取り、その中のいくつかについて特色をまとめている。</p>
	<p>日本の工業のさかんな地域の広がりについて、資料を使って白地図に表している。</p> <p>これからの工業生産の進め方について、関係する資料を参照しながら自分の考えをまとめている。</p>	<p>日本の工業のさかんな地域の広がりについて、資料を使って白地図に表し、その地域の特色やさかんな理由について書き込んでいる。</p> <p>これからの工業生産の進め方について、自分の生活の様子にも目を向け、関係する資料を参照しながら自分の考えをまとめている。</p>	<p>資料を使って、日本の工業のさかんな地域の広がりについていくつかを白地図に表している。</p> <p>これからの工業生産の進め方について、自分の考えをまとめている。</p>
<p>社会的 事象 に つ い て の 知 識</p>	<p>新しい自動車は、乗る人の願いを生かして開発されていることが分かっている。</p> <p>これからの自動車生産は、車や乗る人のことだけでなく、環境や資源のことを考える必要があることを理解している。</p> <p>自動車づくりに携わる人たちは、自動車を早く正確に安</p>	<p>新しい自動車は、乗る人の願いを生かして人々が工夫や努力を重ねながら開発されていることが分かっている。</p> <p>これからの自動車生産は、車や乗る人のことだけでなく、環境や資源のことを考える必要があることや、それらが両立するものであるということを理解している。</p> <p>自動車づくりに携わる人たちは、自動車を早く正確に安全に作る工夫</p>	<p>新しい自動車は、乗る人の願いを生かしていることが分かっている。</p> <p>これからの自動車生産は、車や乗る人のことだけでなく、環境のことも考える必要があることを理解している。</p> <p>自動車づくりに携わる人たちは、自動車を早く正確</p>

理解	全に作る工夫や努力をしていることが分かっている。	や努力をしていること、願いをもっていることが分かっている。	に作る工夫や努力をしていることが分かっている。
	自動車の輸送に携わる人たちは、自動車を傷つけずに運ぶために工夫や努力をしていることが分かっている。	自動車の輸送に携わる人たちは、自動車を傷つけずに運ぶために工夫や努力をしていること、願いをもっていることが分かっている。	自動車の輸送に携わる人たちは、自動車を運ぶために工夫や努力をしていることが分かっている。
	物や人の輸送を支える交通網の役割を理解している。	物や人の輸送を支える交通網の役割、2つの輸送の特色や違いを理解している。	物や人のいずれかの輸送を支える交通網の役割を理解している。
	貿易は、自分たちの暮らしを支える大切な営みであり、相手先とも話し合いながらつり合いをとっていく必要があることを理解している。	各産業の特色をとらえて、貿易は、自分たちの暮らしを支える大切な営みであり、相手先とも話し合いながらつり合いをとっていく必要があることを理解している。	貿易は、自分たちの暮らしを支える大切な営みであることを理解している。
工業のさかんな地域の広がりや、中小工場が日本の工業を支えていることを理解している。	工業のさかんな地域の広がりや、大工場と中小工場の関係、中小工場が日本の工業を支えていることを理解している。	工業のさかんな地域の広がりや、中小工場が日本の工業を支えていることのいずれかを理解している。	
工業の発達により人々の暮らしが豊かになったことや、これからは環境や資源に配慮し工業生産を進めていかなければならないということが分かっている。	工業の発達により人々の暮らしが豊かになったことや、これからは環境や資源に配慮し工業生産を進めていかなければならないということ、今の自分はどうすべきかが分かっている。	工業の発達により人々の暮らしが豊かになったことや、これからは環境や資源に配慮し工業生産を進めていかなければならないということのいずれかが分かっている。	

## 6 指導と評価の計画（全23時間）

	ねらい 主な学習活動・内容（時数）	学習活動における評価規準【評価方法】
自動車工場をたずねて	<p>工業生産は、国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解させる。</p> <p>資料の活用を通して具体的に工業の概要を調べることができるようにさせる。（14）</p> <p>2台の自動車をよく観察することで、自動車に関心をもち、部品の数や種類の多さ、自動車によって同じ部品でも違いがあることに気付く。（1）</p> <p>家庭での聞き取り調査をもとに、自動車に対する消費者の願いを通して自動車の利便性</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>人々がどんな自動車に乗りたいと考えて</p>

・問題点について考える。(1)

自動車販売店で、様々な種類の自動車を観察したり、環境問題へ対応する取組の一例として環境対策車を見学したりする。(2)

消費者の願いを、生産者として自動車づくりにどのように生かしているかを調べ、未来の自動車づくりについて考え、話し合う。(2)

メーター及びその内部を観察することを通して、メーター工場見学の視点をもち、働く人々の工夫や努力について調べる計画を立てる。(2)《本時1/2》

メーター工場を見学する。(3)

メーター工場での調査結果をもとにして、組み立て工場で働く人々の工夫や努力・願いについて資料を活用しながら調べる。(3)

いるのか、関心をもって調べようとしている。  
【ノート・発言】

関心・意欲・態度

安全で、人や環境にやさしい自動車づくりに関心をもって調べようとしている。

【行動観察・ノート・発言】

技能・表現

資料をもとに、「安全な車、人にやさしい車、リサイクルしやすい車」づくりの工夫を読み取っている。  
【ノート】

思考・判断

安全で乗る人にやさしい自動車とは、どのような車か考えている。

【ノート・発言】

知識・理解

新しい自動車は、乗る人の願いを生かして開発されていることが分かっている。

【ノート・発言・ワークテスト】

知識・理解

これからの自動車生産は、車や乗る人のことだけでなく、環境や資源のことを考える必要があることを理解している。

【ノート・発言・ワークテスト】

関心・意欲・態度

自動車メーターの内部のしくみについて意欲的に観察し、気付いたことを発言したりノートに書いたりしている。

【行動観察・ノート・発言】

思考・判断

品質の高い自動車メーターが大量に生産されるには、働いている人々の工夫や努力があることに気づき、働く人や地域の環境に配慮した自動車づくりの工夫について考えている。  
【ノート】

思考・判断

工場の立地条件について、物や人の動きとのかかわりから考えている。

【ノート・発言】

技能・表現

工場の全景写真と配置図を対照しながら、その特徴を読み取っている。

【ノート・発言】

	<p>技能・表現 調べる目当てに即して、自動車作りや働く人々の様子を調べている。【ノート】</p> <p>知識・理解 自動車づくりに携わる人たちは、自動車を早く正確に安全に作る工夫や努力をしていることが分かっている。 【ノート・発言・ワークテスト】</p>
<p>自動車が届くまで</p> <p>工業生産を支える貿易や運輸の働きについて理解させる。 統計資料や地図、地球儀などの活用を通して暮らしを支える貿易について考えることができるようにする。(5)</p> <p>組み立て工場から販売店までどのようにして自動車が届けられるかについて話し合い、調べる計画を立てる。(1)</p> <p>資料を活用して調べたり、自動車販売店で働く人々にインタビューしたりして確かめる。(1)</p> <p>自動車は外国にも輸出されたり、外国で日本の自動車が生産されていることを知り、その理由を考え、話し合う。(1)</p> <p>地球儀や地図を活用し、自動車の他にどのようなものを輸出入しているかを調べ、日本の貿易の特色について考える。(2)</p>	<p>関心・意欲・態度 完成した自動車をどのようにして運ぶのに関心を持ち、運輸の仕事について調べようとしている。 【行動観察・ノート・発言】</p> <p>技能・表現 ビデオ映像や働く人へのインタビューなどから、自動車をキャリアカーで運ぶ仕事や船に積み込む仕事の様子を調べている。 【ノート】</p> <p>知識・理解 自動車の輸送に携わる人たちは、自動車を傷つけずに運ぶために工夫や努力をしていることが分かっている。【ノート・発言】</p> <p>技能・表現 地図をもとに、日本の交通網の広がりを読み取っている。【ノート・発言】</p> <p>思考・判断 運輸の仕事に利用される高速道路の役割や、船による輸送の役割について考える。 【ノート・発言】</p> <p>知識・理解 物や人の輸送を支える交通網の役割を理解している。 【ノート・発言・ワークテスト】</p> <p>関心・意欲・態度 自動車の輸出入の様子から、日本の貿易の特色や問題について関心をもって調べよ</p>

		<p>うとしている。【行動観察・ノート・発言】 思考・判断</p> <p>日本の貿易の問題に気付き、これからの貿易の進め方について考えている。 【ノート・発言】</p> <p>技能・表現</p> <p>地球儀や地図、グラフなどをもとに、主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移などを読み取り、その特色をまとめている。 【ノート・発言】</p> <p>知識・理解</p> <p>貿易は、自分たちの暮らしを支える大切な営みであり、相手先とも話し合いながらつり合いをとっていく必要があることを理解している。 【ノート・発言・ワークテスト】</p>
<p>これからの工業生産</p>	<p>日本の工業の特色や工業地域の分布を理解させる。 様々な資料から日本の工業の概要を調べることができるようにさせる。(4)</p> <p>地図帳を活用して、工業が盛んな地域がどこにあるか調べ、白地図に色をぬる。そして、工業が盛んになったわけを考え、話し合う。(1)</p> <p>我が国の工業の種類、規模による違いを、資料をもとにして、日本の工業の特色を話し合う。(1)</p> <p>工業の発達によって、くらしがどのように変化してきたかを調べ、「工業とわたしたちのくらしの関わり」について自分の考えをレポートにまとめる。(2)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>日本の工業のさかんな地域の広がりについて関心をもって調べ、白地図に表している。【行動観察・ノート・発言】</p> <p>技能・表現</p> <p>地図やグラフ・写真から、工業のさかんな地域の広がりや、大工場と中小工場の生産の違いを読み取っている。 【ノート・発言】</p> <p>思考・判断</p> <p>日本の工業生産は、多くの中小工場のはたらきによって成り立っていることに気付く。【ノート・発言】</p> <p>知識・理解</p> <p>工業のさかんな地域の広がりや、中小工場が日本の工業を支えていることを理解している。【ノート・発言・ワークテスト】</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>工業の発達による自分たちの暮らしの変化に関心を持ち、これからの工業生産の進め方について考えようとする。 【行動観察・ノート・レポート】</p>

	<p>思考・判断  これからの工業生産について、環境と資源へ配慮する点から考え、適切に判断している。 【ノート・レポート】</p> <p>技能・表現  これからの工業生産の進め方について、関係する資料を参照しながら自分の考えをまとめている。 【ノート・レポート】</p> <p>知識・理解  工業の発達により人々の暮らしが豊かになったことや、これからは環境や資源に配慮し工業生産を進めていかなければならないということが分かっている。 【ノート・レポート】</p>
--	---

## 7 - 本時の学習

### (1) 本時のねらい

自動車のメーター及びその内部を観察する活動を通して、自動車部品工場について調べる意欲をもち、見学する際の視点をもつことができる。

### (2) 本時における評価規準

#### 関心・意欲・態度

メーター内部のしくみについて意欲的に観察し、気付いたことを発言したりノートに書いたりしている。 【行動観察・ノート・発言】

#### 思考・判断

品質の高いメーターが大量に生産されるには、働いている人々の工夫や努力があることに気付く。 【ノート】

### (3) 本時の活動について

はじめに、自動車メーターを児童に提示し、自動車にメーターが取り付けられている理由を考えさせる。児童は、前時までの学習において、自動車作りには安全性を高める工夫と努力が必要だということを学習している。このことをもとにして、メーターが自動車の安全性を確保するのに重要な役割を果たしていることに気付かせたい。

「どうして自動車にはメーターが付いているのだろうか」と働きかけ、安全性の秘密に目を向けさせたい。そこで、メーター内部を分解した物を児童に観察させる。メーター内部の様子を実際に見たりさわったりすることで、学習する意欲を高め、たくさんの部品が使われていること、部品一つ一つが細かいこと、それらの部品がきちんと組み立てられていること、それから、精密さが命であることに気付かせていく。

この精密で複雑な機械をどうやって作っているのかに目を向けさせるために、「1日にどれくらいの数を生産しているのだろうか」と投げかける。児童は、内部の複雑さを根拠にして少なめの数を予想したり、実際目にする自動車の数を根拠にして多めの数を予想するのではないかと考える。

その後、「1日に約5000個生産されている」という事実を知らせる。これを聞いて、児童

はその数の多さを知り、「メーター工場ではどのようにして生産を進めているのか」という問題意識をもつと考える。

最後に、「メーター工場では、どのようにして高品質の製品を大量に生産しているか」について予想させる。児童は、働く人や機械に着目して考えるであろう。その「人」と「機械」を見学の視点にして、次時では具体的な見学の計画を立てていきたいと考える。

本時では、「社会的事象に対する関心・意欲・態度」・「社会的な思考・判断」について、評価規準に照らし合わせて重点的に評価する。具体的な判断基準と努力を要する児童への指導・支援は、以下の通りである。

**関心・意欲・態度**

メーター内部のしくみについて意欲的に観察し、作った人の様子に着目しながら、気付いたことを発言したりノートに書いたりしている児童は、「十分に満足できる(A)」と判断する。

メーター内部のしくみの観察に消極的であったり、気付いたことをノートになかなか書けない児童に対しては、部品を手を持たせてじっくりと観察させたり、観察した感想を尋ねたりする。

**思考・判断**

品質の高いメーターが大量に生産されるには働いている人々の工夫や努力があることに気付き、働く人や機械に着目して、その理由を具体的にノートに書いている児童は、「十分満足できる(A)」と判断する。

理由をノートに書くことができずにいる児童に対しては、働く人や機械という考える視点を与えたり、友達の考えを聞かせたりしていく。

(4)本時の展開について

学習活動	教師の働きかけや児童の反応	指導上の留意事項と評価
<p>1 自動車にメーターが取り付けられている理由を考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうして、自動車にはメーターが付いているのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今どれくらいの速さで走っているのかわからないと危ない。警察につかまる。</li> <li>・今どれくらいガソリンが入っているのかわからないと、車が途中で止まってしまっ危険ない。</li> <li>・メーターが故障すると、危険だなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メーター各部の名称を確認する。</li> <li>・タコメーター・温度計の取り付けられている理由は、教師が説明する。</li> </ul>
<p>2 メーターの内部を観察する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>メーターの中をよく見てみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの部品が使われている。</li> <li>・細かい部品が使われている。</li> <li>・組み立てるのが大変だなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組み立てられた内部と、分解した内部を見せる。</li> <li>・気付いたことは、ワークシートに書かせる。</li> </ul> <p><b>関心・意欲・態度</b></p> <p>メーター内部のしくみについて意欲的に観察し、気付いたことを発言したりノートに書いたりしている。</p> <p>【行動観察・ノート・発言】</p>

<p>3 1日に生産される数を予想する。</p>	<div data-bbox="395 129 1002 264" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>工場では、このメーターを1日にいくつ生産しているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの細かい部品が使われているから、100個ぐらいだ。</li> <li>・自動車はたくさん走っているから、1000個ぐらいだ。</li> </ul> <div data-bbox="395 488 1002 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一日に約5000個生産されています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そんなにたくさん作っているんだ。すごいなあ。</li> <li>・どうやって作っているんだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「(日本精機)高見事業所の生産品目と数量」を提示する。</li> </ul>
<p>4 メーター工場の製品づくりについて予想する。</p>	<div data-bbox="395 757 1002 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>メーター工場働く人々は、故障しないたくさんのメーターをどうやって作っているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に作る機械を使っている。</li> <li>・出来上がったら、検査している。</li> <li>・速く作る機械を使っている。</li> <li>・人がたくさん働いている。</li> <li>・人が休まずに働いている。</li> <li>・たくさんの機械を使っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをワークシートに書かせる。</li> </ul> <p><b>思考・判断</b></p> <p>品質の高いメーターが大量に生産されるには、働いている人々の工夫や努力があることに気付く。</p> <p style="text-align: right;">【ノート】</p>

## 7 - 本時の学習

### (1) 本時のねらい

白地図や表を使って、日本の工業のさかんな地域の広がりについて調べ、工業のさかんな地域を、工場の立地条件や貿易・交通網とのかかわりから考え、その特色をとらえることができる。

### (2) 本時における評価規準

関心・意欲・態度

日本の工業のさかんな地域の広がりについて関心をもって調べようとする。

【発言・行動観察・ノート】

思考・判断

日本の工業のさかんな地域の広がりから、その特色を工場の立地条件、貿易・運輸との関わりから考えている。

【発言・ノート】

技能・表現

日本の工業のさかんな地域の広がりについて、表を使って調べ、白地図に表すことができる。

【行動観察・ノート】

### (3) 本時の活動について

まず、資料「組み立て工場のある都道府県」を黒板に掲示し、「わたしたちの新潟県は、工業がさかんでしょうか」と働き掛ける。児童は、前時までの学習をもとに、メーター工場があった長岡の工業団地の様子を思い出し、「さかんである」と考えたり、新潟県では農業がさかんであることや、県内には自動車の組み立て工場がないことから、「さかんでない」と考えたりするであろう。その後、資料集にある「都道府県別工業生産額」で、新潟県が生産額では全国でどれくらいの位置にいるのかということ（総生産額第22位）や、せんい工業がさかんであること（生産額第9位）を確かめる。

そして、「日本の工業のさかんな都道府県は、どこだろう」と働きかける。ここでは、前述の資料から、全国第1位から第15位までの工業生産額の高い都道府県を調べ、都道府県の名称や位置を確認させながら、白地図に印を付けていく。児童は、完成した地図から海沿いにある都道府県が多いことや、自動車の組み立て工場の分布図とを比べ、共通点（該当する都道府県が多数一致していること、トヨタ自動車の工場がある愛知県が全国1位であること、日産自動車苅田町のある福岡県も15位以内に入っていること）が多いことに気付く。

そこで、工業のさかんな地域には、名称（四大工業地帯・各工業地域の名称、太平洋ベルト）があることを知らせる。

最後に、工業のさかんな地域の広がりの特徴をとらえさせるために、「なぜ、それらの地域で工業がさかんなのだろう」と働きかけ、自分の考えをノートに書かせる。児童は、自動車産業の学習や本時で用いた資料を根拠にして、人口の多い都市のある都道府県が多いことや、大きな工場の立地条件として、広い平地が必要だということ、貿易・運輸の様子にも関連があることを特徴として挙げるであろう。ノートに記入後、一人一人の考えを出し合い、全体で話し合ったことを「人」と「場所」に整理してまとめていく。

本時では、「社会的事象に対する関心・意欲・態度」、「社会的な思考・判断」、「資料活用の技能・表現」について、評価規準に照らし合わせて重点的に評価する。具体的な判断基準と努力を要する児童への指導・支援は、以下の通りである。

関心・意欲・態度

白地図を使った作業に意欲をもって取り組み、工業のさかんな地域の広がりの特徴について自分の考えを進んでノートに書いている児童は（A）と判断する。

白地図を使った作業に消極的であったり、自分の考えをノートになかなか書けないでいたりする児童に対しては、作業の手順を教師と共に確認したり、作業を終えた感想を尋ねたりする。

**思考・判断**

工業のさかんな地域の広がりについて、その特色を人口や地形、貿易・運輸との関わりといった様々な観点で考え、自分の考えを積極的にノートに書いたり発表したりしている児童は「十分満足できる（A）」と判断する。

自分の考えをノートになかなか書けないでいる児童に対しては、地図の見方を教えたり友達のことを聞かせたりする。

**技能・表現**

白地図を使った作業の手順を理解し、効率よく作業を進めている児童は「十分満足できる（A）」と判断する。

作業の手順がよく分からずに活動が停滞している児童に対しては、その手順を教師と共に確認する。

(4)本時の展開について

学習活動	教師の働きかけや児童の反応	指導上の留意事項と評価
<p>1 前時までの学習をもとに、新潟県の工業について考える。</p>	<div data-bbox="395 842 1015 976" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしたちの新潟県は、工業がさかんでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車の組み立て工場のような大きな工場が少ないからさかんではない。</li> <li>・新潟県は、農業がさかんだから、工業はさかんではない。</li> <li>・メーター工場の周りには、工場がたくさんあったから、さかんだ。</li> </ul> <div data-bbox="395 1290 1015 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>資料で新潟県の様子を確かめてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟県は、工業生産額が全国で22位だ。</li> <li>・せんい工業がさかんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料（地図）「（自動車）組み立て工場のある都道府県」を黒板に掲示する。</li> <li>・資料集 P95『データで見る「日本都道府県別統計(3)」』を使って確認する。</li> </ul>
<p>2 日本の工業のさかんな地域の広がりについて調べる。</p>	<div data-bbox="395 1514 1015 1648" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日本の工業のさかんな都道府県はどこでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海沿いにある都道府県が多い。</li> <li>・自動車の組み立て工場がある都道府県が多い。</li> <li>・人口の多い都道府県が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前述の資料を使って調べたことを白地図に記入する。</li> </ul> <p><b>関心・意欲・態度</b></p> <p>日本の工業のさかんな地域の広がりについて関心をもって調べようとする。</p> <p>【発言・行動観察・ノート】</p> <p><b>技能・表現</b></p> <p>日本の工業のさかんな地域の広がりについて、資料を使って白地図に表している。 【行動観察・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業のさかんな地域には、</li> </ul>

<p>3 工業のさかんな地域の特色について考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>なぜ、それらの地域で工業がさかんなのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海沿いにあると、製品を船で輸送できるからだ。</li> <li>・大きな工場を作るには、広く平らな土地が必要だからだ。</li> <li>・人口が多い地域には、働く人がたくさんいるからだ。</li> </ul>	<p>その特徴から名称が付けられていること知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が特色を見いだせなかった場合は、具体的な資料を紹介し、それをもとに考えさせる。</li> </ul> <p><b>思考・判断</b></p> <p>日本の工業のさかんな地域の広がりから、その特色を工場の立地条件、貿易・運輸との関わりから考えている。 【発言・ノート】</p>
-------------------------------	--	--

8 単元における観点別評価の総括について

本単元では、下記の表を使い、各時間ごとに評価の記録をとっていく。「十分満足できる状況」と判断されるときは「A」、「おおむね満足できる状況」と判断されるときは「B」、「努力を要する状況と判断される」ときは「C」として記録していく。

そして、単元全体を通して、それぞれの観点について「A」が半分を超えていれば、その単元における観点別評価は「十分満足できる状況」と総括する。また、それぞれの観点について「C」が半分を超えていれば「努力を要する状況」と総括する。どちらにも該当しない場合は、「おおむね満足できる状況」と総括する。

また、単元のまとめの活動となる「これからの工業生産」について、自分の考えをレポートにまとめる活動（評価規準 関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解）では、状況が特に優れている場合には、その点を総括に加味する。

# 研究の成果と課題

## 学習指導案の作成にあたって

### 1 具体的な評価規準の設定について

よりきめ細かく指導と評価の一体化を行うには、より具体的な評価規準が必要であるが、設定する作業に時間が割かれてしまい、1時間レベルの指導の構想をしっかりと立てることが十分にできなかった。

### 2 評価基準（判断基準）の設定について

A基準の作成では、児童の学習における具体的な姿を想定するのが難しかった。C基準についても同じことがいえる。C基準を「B基準に達していない」と考えた場合、具体的な姿を想定するのではなく、B基準に到達させるための具体的な支援を計画した方が、評価には有効であると考えた。

## 指導と評価の実際

### 1 1時間の授業から（「指導と評価の一体化」について）

#### (1) 実践 小单元「自動車工場をたずねて」(7/14)

##### 「関心・意欲・態度」について

本時では、自動車部品工場について調べる活動に意欲をもたせるために、実物のメーターを2個用意した。あらかじめ、児童にも分解が容易にでき、内部の様子や部品の細かさを実感できるようにして提示した。

実際にメーターを観察させる活動は、部品の複雑さや精密さに関心をもたせることに有効であった。児童は、生き生きとした表情で細かい部品をさわったり、内部の様子をじっくりと眺めていたりしていた。観察して気付いたことをワークシートに書く活動でも、ほとんどの児童が意欲をもって取り組んでいた。メーターの部品の様子（数、種類、材質、大きさ）や組み立てられている様子（複雑さ）をいくつも記入していた。そこで、このようなことを記述していた姿を、「達成している（B）」と判断した。

また、「同じネジでも大きさや形が違い、先に糸のようなものがついているものもある」と、細かな部品一つ一つにも工夫がされていることに気付いた児童や、「指で動かしても針が元にもどる」と、メーターが正確に表示するための工夫がされていることに気付いていた児童は「十分達成している（A）」と判断した。



#### ○メーターの中をよく見てみよう。

気づいたこと  
メーターの中は色々な色のシートが貼られて、すごくきれいな感じだ。  
あんなうすいシートがあるなんて初めて見た。  
お針は色々な色で、お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。

十分達成している（A）と判断した児童の記述

#### ○メーターの中をよく見てみよう。

気づいたこと  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。  
お針の先は色々な色で塗られている。

達成している（B）と判断した児童の記述

「達成していない（C）」と判断した児童に対しては、次のような支援を行った。

メーターの観察に消極的な児童に対しては、このままではワークシートにも気付いたことを書けないのではないかと判断し、メーターを実際に手に持たせて部品の説明をしながら観察をさせた。また、ワークシートに自分の考えをなかなか書けないでいた児童は、観察したことを教師と一緒に振り返ることで、書くことができた。

なお、設定した判断基準では「十分達成している（A）」については、「作った人の様子」に着目して発言したり記述したりする児童を想定していた。しかし、実際に授業をしてみると、この基準で判断をするのは難しかった。学習内容と評価規準を照らし合わせて、判断基準を十分に吟味する必要があると考えた。

### 「思考・判断」について

工場で働く人々の工夫や努力に気付かせるために、一日の生産量の多さを表す資料をもとにして考えさせたが、ワークシートを前にして悩む児童が多かった。

○メーター工場で働く人々は、故障しないたくさんのメーターをどうやって作っているんだろう。  
予想してみよう。  
機械と人で作っている。  
で、ほとんど機械で作っている。  
人に、入組人数で作る。  
作り終わったら、検査をとりながら作る。

十分達成している（A）と判断した児童の記述

○メーター工場で働く人々は、故障しないたくさんのメーターをどうやって作っているんだろう。  
予想してみよう。  
ほとんど機械で作り出している、すくなくは人、が作る。

達成している（B）と判断した児童の記述

授業での様子やワークシートの記述をもとに評価をしてみると、何も書けなかった児童が約20%（C基準）もあり、人と機械に着目し「検査をしている」「作業の分担をしている」と具体的に答えている児童（A基準）は20%に満たなかった。これは、部品工場についての情報（工場の広さ、従業員の数など）を児童に対して教師が十分に与えていなかったためだと考えられる。社会科の学習では、児童に提示する資料を吟味する必要性を痛感した。

## (2) 実践 小単元「これからの工業生産」(1/4)

### 「技能・表現」について

具体的なデータ（都道府県別工業生産額）を表から読み取り、それを白地図に表すことで、日本の工業のさかんな地域の広がりを理解させようと考えた。

データを正しく白地図に記入している児童は（B）と判断し、データの記入ミスがないように気を付けながら手際よく作業を進めていた児童は（A）と判断した。そして、活動が停滞し教師の働きかけが必要だった児童は（C）と判断した。



しかし、1時間で学習内容を達成させようという教師の意識が働いて、作業の時間を予定より多く割いてしまった。その分、児童の次の活動時間が不足してしまった。

その原因は、日ごろから地図を使って学習することが不足していたと考えられ、児童に日本の都道府県の名称とその位置を正しく理解させる、基礎・基本的内容の定着が悪かったとら

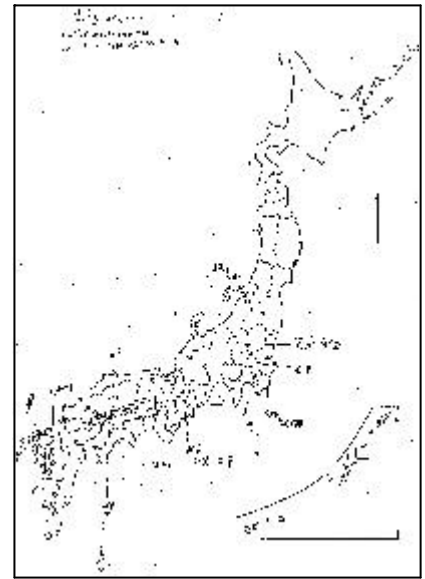
え、本時の後、朝学習の時間を使って地方別に名称と位置を覚えるミニテストを行い、習熟を図った。



十分達成している (A)  
と判断した児童の記述



達成している (B)  
と判断した児童の記述



達成していない (C)  
と判断した児童の記述

#### 「関心・意欲・態度」、「思考・判断」について

自分たちの住む新潟県と他の都道府県の比較や、自動車工業について学習したことは、日本の工業全体に目を向けさせることに有効であった。工業のさかんな都道府県を白地図に記入する作業では、真剣な表情でデータを見ながら白地図に結果を記入する児童が多くなり、作業学習は興味・関心を喚起させるのに十分役立つことが分かった。

「関心・意欲・態度」については、発言や作業に取り組む様子を判断の対象にした。白地図にデータを記入し、工業地帯の分布を正しく記入している児童は (B) と判断し、工業のさかんな地域の特徴について積極的に発言した児童や、ワークシートに「工場が海に面していると輸送しやすい」「なぜ北海道は工業がさかんではないのだろう」など、その地域がさかんな理由や学習して生じた疑問などを記入している児童は (A) と判断することにした。

しかし、工業のさかんな地域の広がりの特徴について、作業の結果をもとに考える時間が十分にとれなかったため、「思考・判断」については、次時で自分で作った資料をもとに特色について考える時間を設け、その様子で判断することにした。

## 2 単元全体の指導から

### (1) 「書く活動」を重視したことについて

評価の方法として、書く活動や作業を重視することは、授業中では見取ることができなかった児童の様子を把握することに有効であった。学習を進めるにつれて、児童は書く活動に意欲をもって取り組むようになった。自分の考えを明確に言葉に表したり、友達の考えを書き足したりして理解を深める姿が多く見られるようになった。

反面、「聞く」「話す」といった場面では、ノートやワークシートに書くことに熱心なあまり、発言に消極的であったり教師の指示や友達の考えをよく聞かずにいたりする児童もいて、指導が徹底しない場面が見られた。

児童の学習の様子を見取する方法として、ノート・ワークシートを重視することはよいことではあるが、書く活動が「評価するための活動」にならないよう配慮する必要がある。学習内容が子どもにきちんと身に付くように、「書く」「聞く」「話す」の3つの活動を授業の中でバランスよ

く展開することが大切であると考えた。「書く」「聞く」「話す」は、学習活動の基本でもあり、特に社会科において、資料をもとに意見をきちんともつことが大切である。今後指導をしていく必要を感じた。

また、今回は学習内容に対する児童の実態をアンケートで調査したり、学級で取り組んでいる日記を活用したりすることで、児童の教材に対する意識や教師の手立てに対して児童がどう考えていたかを把握することができた。例えば、ワークシートには、学習のねらいに沿った自分の考えが書かれていても、日記の記述を見ると、ねらいとは違う方向に興味・関心が向けられている場合があった。行動観察・ノートなどからはとらえることができなかった児童の姿を見取ることができ、授業での指導、支援に役立てることができた。

## (2) 指導と評価の一体化について

評価規準を設定していることで、一人一人の児童の学習の様子が明らかになり、支援に役立てることができた。また、自分の指導が児童の学びにどう生かされているかが分かり、そのことが授業後の反省に役立ち、その後の指導に生かすことができた。

しかし、今回は、児童の様子を記述し分析するための方法については十分に吟味して実践することができなかった。授業者の感覚でなく、より客観的に評価していくためには、補助簿などの有効な活用について検討する必要がある。

## (3) 単元の総括について

「評価のための授業」にならないように心がけたつもりだが、計画通りに進めなければいけないという意識が働き、子どもに能力を十分に発揮させていない場面での評価をしてしまいがちになり、学習した内容に見合った適切な評価ができないこともあった。評価の積み重ねは大切なことであるが、特に今回扱った単元は全23時間という大きな単元であるので、単元のまとめでは、単元全体の目標に照らし合わせ、子どもたちが学習した成果を十分に発揮できる活動を設定し、単元を通して身に付いた力を適切に評価することが大切であると考えた。